

第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 川上 健治

1. 単元名 たぬき話を読もう～昔話バージョン～
2. 教材名 たぬきの糸車
3. 単元目標
 - ・読書に親しみ、色々な本があることを知ることができる。 【知識及び技能】
 - ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像できる。 【思考力・判断力・表現力等】
 - ・登場人物の行動を考えながら、昔話を読んで楽しもうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
4. 指導にあたって

本学級の児童は、1学期に学習した「おおきなかぶ」、2学期に学習した「ゆうやけ」や「くじらぐも」等で物語文を読む経験をしている。最初は、自分の想像上のことばかり言っている児童が多く見られたが、物語文の学習を重ねることで叙述を根拠にしようという意識が見られるようになってきた。しかし、「うれしいと書いてあるから、うれしいという気持ちだと思います。」というように言葉の表面だけしか捉えられないため、物語の世界を豊かに想像することが、まだまだできていないと考える。

そこで、本単元では、「たぬき話を読もう」という活動を設定した。この活動をすることで、様々な昔話の中には、ある動物を取り上げた本が多くあることを知ることができる。また、何となく読むのではなく、様々な昔話を登場人物の行動や気持ちの変化に着目して読んでいくことで、より一層読書の楽しさを感じることができるであろう。その為に、「たぬきの糸車」の教材を使い、学習を積み上げていく。たぬきの糸車は、擬音語や擬態語が用いられており、音読を重ねることで、言葉の楽しさを実感し、自然に物語に入り込んでいけることができる教材である。また、物語の展開も明解であり、魅力的な登場人物の行動描写が中心となった文章である。たぬきとおかみさんはもちろん、端役のきこりにも注目することで、物語に奥行きが出て、人物の行動から場面の様子をより豊かに想像することができる教材でもある。

指導にあたっては、紹介する昔話を自力で読み取れるためにも、**①作品の設定②視点③文学特有の表現技法④中心人物の変化⑤主題**の5つの文学の論理的な読み方（西尾市立西野町小学校『文学授業のユニバーサルデザイン』2014.2.p19.東洋館出版社）の中から、本単元では、①作品の設定②視点④中心人物の変化を学習していく。また、論理的な読み方を習得する手立てとして、以下の10の教材のしかけの一部を用いている。

①順序を変える②選択肢をつくる③置き換える④隠す⑤加える⑥限定する⑦分類する⑧図解する
⑨配置する⑩仮定する

（授業のユニバーサルデザイン研究会沖縄支部『教材に「しかけ」をつくる国語授業10の方法』2013.2.p2）

第一次では、初発の感想後、挿絵や語句の書かれたカードを分類しながら作品の設定を読み取り、大まかな内容を掴ませる。第二次では、それぞれの登場人物（きこり夫婦、たぬき）の気持ちを読み取っていく。この際は、中心人物であるおかみさんのたぬきに対する気持ちを図解しながら板書していくことで気持ちに変化が起こっていることに気がつかせる。また、「もし、そこにきこりもいたら」というようにきこりの存在を仮定して、夫婦で繰り広げられる会話や気持ちを考えさせることで、叙述を基にした様々な解釈を引き出したい。第三次では、第二次で読み取ったことを基に、「たぬき話を読もう」という活動を行う。第三次の1時間目で教師が選定した「かちかち山」と「ぶんぶく茶釜」の2冊の本を読み聞かせる。そして、作品の設定や中心人物の変化などを全員でおさえていった後に、読後の感想を書かせる。2時間目で

は、たぬきの糸車を含む計3冊の中でお気に入りのたぬき話を決め、理由を考え交流させる。本時では、「冬の間、たぬきがずっと糸を紡ぎ続けたのは、いたずらだったのか」を考えさせる。まずは、前時で糸車を回すことが上手くなっていることから冬の間、にずっと、糸車を回していたことを想起させる。その後、全員が、参加したくなるように「なんで、冬の間、ずっと糸を紡いでいたのかな？いたずらだったのかな？」と教師が掛け合いをしているビデオを見せる。そこから、本時の課題に繋げる。この課題を解決するために、いたずらだったのか、そうではなかったのかの2択で判断を促し、理由まで考えさせることで、やっぱりいたずらだったのか、それとも助けてくれた恩返しだったのか、お礼がしたくて頑張ったのか等々の多様な意見を引き出させられると考える。そうすることで、冬の間、糸を紡いでいた理由がその子なりに明確になっていくであろう。また、吹き出しに書くことから始め、まとめへと繋げていく。最初に吹き出しの中に書かせることで、書くことに対してのハードルを下げ、登場人物に同化して考えられたり、想像豊かに考えられたりすると考えた。

5. 指導計画（全11時間）

	学習の流れ	指導上の留意点
第一次 2h	1) 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞き、初発の感想を交流する。 2) 時・場所・人物をまとめる。《作品の設定》 《視点》	・感想は「おもしろい・ふしぎ・おどろき」の3つの観点で書かせる。 ・場面を表す挿絵や語句カードを分類して(⑦)大まかな内容を掴みやすくさせる。 ・動作化をする(⑨)ことで、立ち位置を確認し、視点を確かめる。
第二次 7h	3) 物語初めのたぬきに対するきこり夫婦の気持ちを読み取る。 4) おかみさんのたぬきに対する気持ちの変化を読み取る。《中心人物の変化》 5) おかみさんがたぬきを助けた夜、きこり夫婦はどんな会話をしたかを考える。 6) たぬきが糸車を回す音は、おかみさんが回す音と同じでいいかを考える。 7) たぬきが冬の間にしたのはいたずらだったのかを検討する。 8) たぬきを見送るきこり夫婦の気持ちを考える。 9) たぬきの糸車のおすすめポイントを紹介する。	・怒りレベル(1~5)を選択させる(②)ことで理由を交流させやすくする。 ・気持ちの変化を図解して(⑧)視覚的に分かりやすくする。 ・「もし、おかみさんがきこりにたぬきを逃がしたことを伝えたら」と仮定する(⑩)ことで、きこり夫婦の気持ちを読み取りやすくする。 ・「はい」「いいえ」の2択で判断させ(②)、たくさんの糸を紡いできたこととおさえる。 ・吹き出し➡おかみさんの一言形式で書くレベルをあげる。 ・「もしも、きこりもこの様子を見ていたら」と仮定する(⑩)ことで、きこり夫婦の気持ちを読み取りやすくする。 ・今までのワークシートを参考に、考えさせる。
第三次 2h	10) たぬき話の感想を書く。 11) たぬき話ランキングをつける。	・3冊の本の読み聞かせをする。 ・緊張する児童もいることから、少人数に伝えることから始める。

6. 本時の学習について

(1) 本時の目標

- ・冬の間に、たぬきが糸を紡いだのは、いたずらだったのかをたぬきやおかみさんの言動から想像することができる。

(2) 本時の展開 (7 / 11時)

学習活動と予想される児童の反応	予想されるつまずき	指導の工夫 ☆焦点化□視覚化△共有化
<p>1. 前時の振り返りをする。</p> <p><input type="checkbox"/>前時の振り返りをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬の間に、たくさんの糸を紡ぐことで糸車を回すのがおかみさんと同じくらい上手くなった。 <p>2. めあてに対しての自分の考えをもつ。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>たぬきがしたのは、いたずらだったのか？</p> <p><input type="checkbox"/>一人で考えましょう。</p> <p><input type="checkbox"/>グループトークをしましょう。</p> <p><input type="checkbox"/>全体で意見を言いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いたずらじゃろう。だって、前も毎晩いたずらにしにきてたじゃないか。」 ・「いたずらじゃないだろう。だって、おんがえしをしたかったんだと思うよ。」 ・「いたずらじゃないだろう。だって、本当はおかみさんが助けてくれたお礼をしたかったんじゃないよ。」 <p>5. 本時のまとめをする。</p> <p><input type="checkbox"/>今日のまとめをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たぬきは、いたずらをしたんだと思います。わけは、前も毎晩いたずらをしてたからだと思います。」 ・「たぬきは、おかみさんに恩返しをしたんだと思います。わけは、自分を助けてくれたお礼をしたかったと思うからです。」 ・「たぬきは、いたずらをしたかったと思います。わけは、いたずらがしたかったからです。」 <p>6. 本時の振り返りをする。</p> <p><input type="checkbox"/>今日の振り返りを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの意見が分かりました。 ・〇〇さんのおかげで、自分の意見もいいんだということが分かって安心することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前時の活動を言語化できない。 ●前時の活動を抽象化した言葉で伝えられない。 ●一人の力では考えられない。 ●教科書のどこの場面から探せばよいか検討をつけられない。 ●課題に対する自分の考えを文章化することが難しい。 ●書き方に自信がもてない。 ●自分の意見に自信がもてない。 ●文章化することが難しい。 ●何を書いていいかがわからない。 	<p>□前時のワークシートを見てもいいように伝える。</p> <p>△ペアでお互いに意見を伝えさせるが、困っている子がいたらペアの子がアドバイスをするように促す。</p> <p>□△前時までの学習の足跡を参考にさせる。</p> <p>☆選択肢を与えることで、参加させやすくする。</p> <p>☆「〇〇。だって、△△。」という型をしめす。</p> <p>△個人→グループ→全体という流れで考え、発表させる。</p> <p>□吹き出しを作り、会話をしているイメージをもたせる。</p> <p>☆「たぬきは、〇〇。わけは、△△だからです。」という型をしめす。</p> <p>△早く書き終わった児童から発表させることで、何を書いていいのかわからない児童の参考にさせる。</p> <p><input type="checkbox"/> (評価)</p> <p>たぬきやおかみさんの言動から、たぬきが糸を紡いだのは、いたずらだったのかを想像することができる。</p>